事案名	横須賀市（衣笠山）の事案（神奈川県 14 - 7 - 1）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元横須賀海軍特別陸戦隊化兵隊員）〔3〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元横須賀海軍特別陸戦隊化兵隊員）〔A1〕 ・「横須賀海軍軍需部引渡目録」1 / 3〔A2〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A3〕 ・「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会（第8回）」資料8〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>終戦時に、横須賀の特別陸戦隊が保有するイペリット缶を山中に埋設したとの証言がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員の証言として「昭和20年4月に山口県の防府海軍通信学校に72期生（200名）として入校した。沖縄戦の敗色から2ヶ月後には卒業ということになり、横須賀鎮守府に移動になった。横須賀では、特別陸戦隊（化兵隊）が新たに組織（少尉以下30名程度）され、横須賀の山中にバラックの兵舎を仮設し終戦まで駐屯した。駐屯場所は衣笠駅から30分ほど歩いた山中で、特別陸戦隊の任務（化兵隊の20名）は、アメリカ軍が横須賀に上陸してくるという想定で、毒ガス訓練を毎日行った。訓練はガスマスクや防護服を装備し、敵上陸地点を想定して噴霧器でイペリットを実際に撒布するという危険なものであった。演習場所は、兵舎から30分くらい歩いた川原（一面草原で用水路があった）で行った。訓練後、さらし粉で除染したが何人かのものが糜爛症状になった」と記載されている〔3〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員の証言として、「終戦から2ヶ月ほど横須賀に駐屯したが、8月20日頃に、残留していた20名ほどで部隊にあったイペリット缶（40～50kgの小型のドラム缶）4～5本を山中に埋設投棄した。ドラム缶は山中に深さ2mほどの穴を掘って埋めた。今まで、被害があったという話を聞いていないので米軍が掘り上げて持っていったのかもしれない」と記載されている〔3〕。
新たな情報	<p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員の証言によればイペリット缶埋設場所は、当時旧軍が仮設したバラックの兵舎の横である〔A1〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員は、横須賀の衣笠駅から30分ほど歩いた衣

	<p>笠山の山中にバラックの兵舎を仮設し終戦まで駐屯したと証言している〔A1〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員は、毒ガス訓練は終戦の前日まで行った。また、就寝時に突然、催涙剤やくしゃみ剤の手投弾が投げ込まれて、防毒面を着ける訓練もやらされたと証言している〔A1〕。 ・終戦時、横須賀海軍軍需部の衣笠公園下倉庫に「3号除毒剤」が200缶存在した〔A2〕。 ・衣笠山には、公園が存在している〔A3〕。
<p>環境調査の結果</p>	<p>地下水・大気（表層ガス）・土壌調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度に、衣笠山及びその周辺において16地点の地下水調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった〔A4〕。 ・平成17年度に、衣笠山内の不特定多数の人が立ち入る可能性のある場所において16地点の大気調査及び下記の物理探査の実施範囲において20地点（4検体）の土壌調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった（資料3-1の「別表B/C事案及び新規事案に係る環境調査の結果一覧表」参照）。 <p>物理探査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦時に40～50kgイペリット容器4～5本を埋設したとの証言情報に係る場所は、証言者の記憶が曖昧で特定されていないことから、平成17年度に、衣笠山の利用状況を勘案し、不特定多数の人が立ち入る可能性のある場所において表層からレーダー探査・磁気探査を実施したところ、証言情報に合致する検知点は確認されなかった（資料3-1参照）。